

犯罪から子どもを守るろう

地域ぐるみで犯罪から子どもを守るろう」と、福岡県前原市で昨年12月25日、「安全・安心まちづくり緊急大会」が開かれた。同大会は、前原市と同市議会が主催したもので、児童を狙った事件が相次ぐ中、市民全体で子どもたちを守るよう注意を喚起するのが狙い。松本領男市長が、同年12月議会で公明党の笹栗純

福岡県前原市

夫議員の質問に答え、同大会の実施を表明していた。市内の48団体、約1000人が集い開かれた大会では冒頭、主催者を代表して同市長と成吉大二議長（公明党）がそれぞれ、犯罪から子どもたちを守る安全・安心のまちをつくるため、市民の協力を訴えた。松本市長はウォーキングパトロールや一戸一灯運動

など「一人ひとりが、できることから実践」を呼び掛け、成吉議長は「地域全体で子どもたちを守っていく」という機運をつくり、高

罪から子どもを守る対策として、「知らない人について行かない」「一人で遊ばない」など、小さい時から子どもに危険予測を教え、身に付けさせることが何より有効と力説。「地域全体で子どもを守り、まちを監視することの必要性と、生活安全条例の早期制定、青色パトカーの導入などを訴えた。

その後、行政区長会、小中学校関係者、同PTA、老人クラブ、校区子ども会育成会など9団体が、それぞれ

出た笹栗議員は、「この緊急大会を一過性に終わらせることなく、市民挙げた泉の長い運動にしていきたい」と語っていた。

その立場から子どもを犯罪から守る決意を表明。最後に、犯罪のない安全・安心なまちの実現をめざす「まえばる安全・安心まちづくり決議」を拍手で採択した。



プラカードを持ち街頭で啓發行進を行う成吉、笹栗両議員

安全・安心のまちを

市と議会 約1000人が集い緊急大会
が主催

めることが最も重要」と強調した。
続いて、前原警察署の長谷川健治署長が「子どもの安全のために」と題して講演。その中で、同署長は犯

安全・安心まちづくり緊急



市民約1000人が集い開かれた「安全・安心まちづくり緊急大会」